

# 帳票や圧着はがき作成

デジタル化の進展に伴うペーパーレス化や、出版市場縮小や少子高齢化などを背景に、厳しい環境が続く印刷業界。そのなかで太陽堂印刷所（千葉市、日暮秀一社長）は印刷業務に加え、付随するサービスにも力を入れていく。顧客のニーズを探り、提案していく取り組みで道を切り開こうとしている。

## 一点突破 千葉企業の実力

### 太陽堂印刷所 (千葉市)

《profile》

1948年8月設立。各種帳票を中心に付帯サービスにも力を入れる。従業員数はパートを含め49人。



帳票のデータをコンピューターで管理している

るのではなく、顧客への提案を大事にしているという考え方はここで生まれた。

### 米コンテストで アイデア高評価

日暮社長は毎年1回、米国で行われるコンテストに応募することを自ら課している。2006年にはICタグを組み込んだ3つ折りのカードで、07年には座席番号シールで、2年連続の最優秀賞を受賞した。同社が取引先に実施したアンケートでは「納期」の満足度が最も高かったという。製品やサービスのアイデアに加え、地道な取り組みも顧客満足度を高める上で重要になってくる。

を省力化したい」という顧客の声に応え、封筒を使わずに1枚のはがきで対応できるようにした。今でこそ当たり前の様式だが、サービスを始めた88年当時は画期的だったという。

ちょうどその頃、米国の印刷関連のコンテストに応募した新製品が人賞した。交通違反切符と反則金納付

紙を置き、もう1人がその上からセロハンテープを貼っている。そこで思い付いたのが座席番号シールだ。封かん・発送までを一体で、両端にノリを塗ったシールで、ノリが付いていない部分をめくれば、顧客の手間を省くため帳票の設計から印刷、封入、封かん・発送までを一体で行う。顧客の厚みを測定している。1枚だけ入れるべきところに複数枚入っている。宛先のデータと帳票のデータをコンピューターで一元管理している。

たが座席番号シールだ。両端にノリを塗ったシールで、ノリが付いていない部分をめくれば、顧客の手間を省くため帳票の設計から印刷、封入、封かん・発送までを一体で行う。顧客の厚みを測定している。1枚だけ入れるべきところに複数枚入っている。宛先のデータと帳票のデータをコンピューターで一元管理している。

## 印刷周辺、プラスα提案

続きの電子化に伴い、専用帳票の作成ニーズが開始力を入れていた。圧着はがきなど機能を付加した印刷物だ。「案内の発送作業された製品で、現在、各地の大きなとき機にシールの一部が貼り付いたまま残ってしまうという悩みを解消したい対応も可能だ。ビジネスチャンスは広がっ

納付書といった帳票類を対象にした「ビジネスフォーム印刷」を得意とする。開始した1968年にコンピュータの普及を見越して、工場に最新の印刷機を導入した。役所では各種手

た頃で、同社はいち早く対応がきなど機能を付加した印刷物だ。「案内の発送作業された製品で、現在、各地の大きなとき機にシールの一部が貼り付いたまま残ってしまうという悩みを解消したい対応も可能だ。ビジネスチャンスは広がっ

「1日の仕事で6、8人の仕事になる」と日暮社長。単なる印刷で終わればそれまでだが、そこに付随するサービスを追求していけばビジネスチャンスは広がっ